

(別紙様式 2 - 2)

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和 6 年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 丸亀市立城北小学校
(2) 所在地 香川県丸亀市瓦町 9 5 番地
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (令和 7 年 1 月 8 日現在)

第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年	特別支援学級	児童数計	教員
1 学級 2 3 名	2 学級 3 5 名	1 学級 2 9 名	1 学級 3 1 名	2 学級 3 8 名	1 学級 3 0 名	5 学級 2 3 名	2 0 9 名	2 3 名

2 研究主題等

- (1) 研究主題 人を大切にし 自分も大切にできる児童の育成
～ 自己を見つめ よりよく生きようとする児童を育む道徳教育 ～
- (2) 研究主題設定の理由

本校は、全校児童 200 名余りの小規模校である。「ともに学び合い、心豊かでたくましい子どもの育成」を教育目標に掲げ、笑顔ほくほく（学力保障）、心ほくほく（豊かな心の醸成）、元気ほくほく（体力の向上）の 3 つの合言葉で、人を大切にし、自分も大切にできる児童の育成をめざしている。長年に渡り、地域と連携しながら「人を大切にする学習（人権・同和教育）」を積み重ねてきた成果もあり、友だちのことを大切にしようとする気持ちが強く、困っている友だちを見ると進んで助ける優しい児童が多い。一方で、発達特性や家庭環境など背景は様々であるが、相手の状況や気持ちを理解することが苦手だったり、自分の思いを上手に伝えられなかったりしてトラブルになるなど、人とのかかわり方に課題がある児童もいる。また、全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査では、学校平均が県平均を下回っている領域が多く、学力の向上も本校の重要な課題であるといえる。

道徳教育を進めるにあたって、昨年度 7 月に道徳アンケートを実施した。その結果、道徳の勉強が将来の役に立つと答える児童の割合は高い（94%）が、実際に勉強したことを生活で使えている実感のある児童の割合はそれほど高くない（74.3%）という実態が明らかになった。また、学習に対する関心・意欲・態度、自分の思いや考えを伝え合う力、相手の思いや話の要点を聴き取る力についても、個人差が大きく、授業の中で話し合いを通じてお互いの考えを認め合うことはまだ十分とはいえない。このように学力やかかわる力に差がある集団で児童一人ひとりが自分のことを大切に思い、友だちのことも同じように大切に思いながら学ぶためには、人権・同和教育の視点をもった全員参加をめざす授業改善を行うとともに、児童が授業と生活との往還を感じ、学びを生かして成長できるような道徳教育のカリキュラムをつくっていく必要がある。

以上のように、人を大切にし、自分も大切にし、互いのよさを認め合える児童を育成するために、道徳科の授業改善や、児童が学んだことを生かして道徳性を発揮できるような道徳教育のカリキュラム・マネジメントに取り組むたいと考え、本主題を設定した。

◎「人を大切にし 自分も大切にできる児童」とは

自分の考えをもち、自分の考えを大切なものとして適切に友だちに伝えることができると同時に、友だちの思いや考えを大切なものとして尊重しながら聞くことができる児童の姿であり、自他のちがいを認め合える人権感覚をもった児童の姿をさす。自他のちがいを認め合うには、互いのちがいを知り、思いを聞き合う経験が不可欠である。授業の中で教師が意図的に「学び合い」の場を設定し、「かかわる力」がつくよう指導することによって、人を大切にすること、自分を大切にすることについて、知識だけでなく体験的に理解できると考える。「かかわる力」については、語彙力・読解力との相関がみられ、学力向上の取り組みを継続する必要がある。

◎「学び合い」とは

本校での「学び合い」とは、ペアやグループ活動など、他者とのかかわり合いを通して学ぶ活動をさす。授業で学んだことを自分の課題と照らし合わせて、自分の生活を振り返ったり、友だちから学んだ新たな価値を他者との関係の中で見つめ直したりして、なかまとともに学ぶ子どもをめざすものである。

◎「かかわる力」とは

人といっしょにいることに楽しさを感じ、共感し合って支え合ったり助け合ったりする力であり、いつでもどこでも誰にでも、自分の思いを伝えることができる態度・技能のことをさす。「心を育てるプログラム」や「人を大切にする学習」を中心に全教育活動を通して育成する。

(3) 研究内容方法及び研究組織

【研究内容】

- ① 一人ひとりが自己を見つめ、道徳的实践意欲を高められる道徳授業
 - ・ どの子ども考えがもてる全員参加の道徳授業
 - ・ 実生活とつないで具体的に自己を見つめる振り返り
- ② 全教育活動を通した道徳教育の推進
 - ・ 別葉の作成，活用
 - ・ 掲示の工夫
- ③ 学校全体で取り組む道徳教育の実践例
 - ・ 人権・同和教育とのかかわり
 - ・ 児童会活動の取組
 - ・ 家庭との連携

【研究組織】

ま な び 部 会	か ん き ょ う 部 会
○各研究授業の成果と課題の共有（授業討議を受けて） ○「人を大切にする学習」「心を育てるプログラム」実践，報告，評価，改善 ○年間指導計画，道徳別葉の作成と改善	
○道徳ツールの作成 ○道徳ワークシートの掲示 ○百マス計算（水曜ほくほくタイム） ○「読むデー」（火曜読書タイム） ○「きいてねタイム」（金曜ほくほくタイム）	○道徳アンケート作成・集計・分析 ○体育活動 「J-FIT タイム」「元気アップタイム plus」 ○生活習慣の充実の推進 （保健指導・食育指導・家庭学習など） ○アリーナ前掲示（道徳掲示，体育掲示）

3 研究実践

(1) 一人ひとりが自己を見つめ、道徳的実践意欲を高められる道徳授業

<研究仮説>

道徳科において、一人ひとりが考えをもち、表出するための手立てや、実生活とつないで自己を見つめる振り返りの工夫により、児童の道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えが深まり、道徳的実践意欲を高めることができるだろう。

① どの子ども考えがもてる全員参加の道徳授業

人権・同和教育を基盤とした道徳教育を進めていくためには、誰もが自己を見つめ、それを表現できるためのツールや交流方法を考える必要がある。場面絵を使ってあらすじや人物の関係をおさえ、キーワードを板書に分かりやすく示すことで、読解力の差を埋め、中心発問までスムーズに流れを作ることができる。また、自分の考えをもちにくい、または表出しにくい児童でも参加しやすいように、タブレット端末を活用したり、心情円盤などをはじめとする道徳ツールを作成し、取り入れたりしている。書く・話す活動だけでは、意欲がわかず自信がもてない児童でも、心の数直線を動かしたり、ネーム磁石を貼ったり、役割表現をしたりして身体を動かしながら参加する中で次第に自分事になっていく様子を見ることができた。

特別支援学級の児童への個別支援についても、見通しをもって児童にかかわれるよう、担任同士が連携し、個別にあらかじめ資料を読んでおく、ツールを手にとって慣れておくなどの支援に取り組んでいる。学期ごとに報告会を設け、児童の反応や今後の支援について共有することで、個に寄り添った支援や評価に結びついている。



<お面を使った役割表現>



<ネーム磁石の使用・役割表現>



<タブレット版心のものさし>

② 実生活とつないで具体的に自己を見つめる振り返り

授業の終末で、これからの自分を考えるとき、教材の中で学んだことが日常生活のどの場面で生かされるのかを理解できない児童も多い。そのため、学んだ価値に基づいて自分自身の姿を見つめ振り返ることが十分にできていないという実態がある。

そこで、価値項目に照らした具体的な生活場面を挙げたうえで、これまでの自分の言動や考え方を振り返ったり、今後どのようにしたいかという目標をもたせたりすることによって、道徳科での学びを実生活に生かすための支援としている。導入で示したアンケート結果に基づいた場面や、教材によく似た状況を設定して児童にこれからの自分について考えさせ、「～したい。」などの行動目標だけでなく、なぜそうするのか、本時で学んだことから個々の大切にしたい心について引き出せるようにしている。全員参加の授業にするための支援や、自己を見つめ、学んだことを生活に生かそうとする児童の姿について授業モデルを作成し、全教員でめざす授業像についてイメージを共有しながら授業づくりに取り組んでいる。

<全員参加の道徳授業モデル>

	学習の段階	留意点・発問例	「自己を見つめる」児童の姿
導入	<p>価値への方向づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 価値への関心を高める 課題意識をもつ 	<p><価値を自分に引き寄せ、課題意識をもたせるための支援></p> <p>★生活経験と価値をつなぐ工夫 〔アンケート結果、エピソード、写真、新聞記事、児童の作文など〕</p>	<p>これまでの自分を見つめる</p>  <p>わたしはこんなことがあったよ。 ～な気持ちになったよ。 時々、できていないことがあるな。</p>
展開	<p>教材による価値の把握・追求</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題場面の把握 学習課題の把握 <p>◎中心発問 自分の考えをもつ</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流 ペア グループ 全体 <p>○補助発問 納得する 発見する</p>	<p><自分の考えをもたせるための支援></p> <p>★教材提示の工夫（視覚化） 〔範読、場面絵、視聴覚教材など〕</p> <p>★考えをもたせる工夫（身体を動かす） 〔書く、思考ツールの活用、ネーム磁石を動かす、赤白帽を被る、役割表現など〕</p>	<p>中心人物に自分を重ねて考えることで自分を見つめる</p>  <p>わたしは、～と思うよ。 わたしだったら、～するよ。 なぜなら・・・</p> <p>多様な見方や考え方に触れながら自己を見つめる</p>  <p>本当にできるかな。 私も実は〇〇さんと同じで～かもしれないな。 そうか、〇〇さんはそう思うんだね。なるほど。 やっぱり、私は～だと思うよ。</p>
終末	<p>教材から離れ、自分自身の課題について考える学習</p> <ul style="list-style-type: none"> これからの自分について考える 	<p><学んだ価値を生活につなぐ支援></p> <p>★学びを生かす場面を具体的に想起させ、実践意欲を高める工夫 〔場面設定は単純で分かりやすく！ 単なる決意表明にならないように！ 理由を問うことで本時の学びとつなぐ〕</p>	<p>これからの自分を見つめる</p>  <p>これからは、～していきたいな。それは、～が大切だとわかったからだよ。</p>

これまでに～したことはある？
～できないときもあるよね。
なんでだろう？

～をしながら中心人物はどんなことを考えていたのかな。
～は、どうしたらよかったのだろう。

～ってどういうこと？
なぜ～ではいけないの？

<多面的・多角的に考えを深めるための支援>

★多様な考えを整理し、学び合いを深める工夫
〔板書の構造化、ICTで意見の集約、グループ編成の工夫など〕

～の時、あなたはどんなことを大切にしていきたい？それはどうして？
今日学んだ～が生かせそうだね。

授業前にしたアンケートを授業の
終末に再度入力すると・・・

普段からできているなかが
いましたよ！紹介します。

私たちの学校にもバリアフリーに
なっているところがあるね。



<振り返りでアンケート入力> <生活場面での児童の姿を紹介> <視野を広げて身の回りを見つめる>

(2) 全教育活動を通じた道徳教育の推進

<研究仮説>

学校行事・児童会活動・異学年交流や他教科等の各活動を道徳的実践の場として意図的に配置したカリキュラム・マネジメントを行い、全教員が共通理解のうえ道徳的価値を意図した指導・支援をすることにより、児童の道徳的実践を促すことができるだろう。

道徳科は道徳教育の要であるが、日常生活に生きる道徳性を身に付けさせるためには、全教育活動を通して各活動の道徳的価値を明確にし、全教員で児童の頑張りや伸びを認めて、あたたかく指導していくことが重要である。重点項目を核としてカリキュラム・マネジメント

を行い、児童のがんばりを道徳的に価値づけて称賛したり励ましたりすることによって、児童に「以前よりがんばっている自分」「みんなのことを考えられるようになった自分」などの自己の変容を見つめる機会を与えることができる。児童・教員の道徳アンケートを基に設定した重点項目を中心に、学期ごとに関連する教材を配置し、本校の特色である「人を大切にする学習」や「心を育てるプログラム」との関連をもたせて計画している。

人権・同和教育 「人を大切にする学習」との関連		令和6年度『明倫』(総合的な学習)道徳・特別活動年間計画				生活目標	国語
月	共通内容項目	道徳【35時間】	明倫【70時間】 (総合的な学習)	特別活動 学級活動【35時間+5時間】	児童会活動・学校行事		
4	礼儀・節度・節制	①電話のあらしがやってきた B(礼儀) ②友達のように A(節度・節制) ③さめぎの水の恩人 -西島八兵衛- (伝統と文化の尊重)	笑顔を広げよう なかよしの輪(なかよし大作戦)(70時間)	○4年生になって ○(心)自分発見 ○学級の役に立つこと	(学行)始業式 (学行)入学式 (児童)町別児童会	だまらなくてまじろじをしよう	○こねだての楽器(情・信頼)
5	友情・信頼	①ビクトリーロード B(友情・信頼) ②泣いたあかおに B(友情・信頼) ③いのりの手 B(友情・信頼)	○いろいろな立場の人を理解しよう ・弱い立場(年下)に人々についての理解 ・ペア学年の2年生やこども園・保育所の園児の立場に立って考えよう ・名刺作りをしよう(自分の良さをアピールし、相手に自分を知って)	○図書室を ○春の遠足について ○運動会を成功させよう ○わたしたちの誕生 ○(心)元気になるチャンス	(学行)運動会	元氣よくあいさつをしよう	○ヤドカリとイソギンチャク(忠・愛護)
6	善悪の判断・自信・自律	①友だちが泣いている A(善悪の判断) ②クラスたいこう全員リレー A(善悪の判断) ③ばんざい大きな花まる A(個性の伸長) ④花をさかせた水がめの話 A(個性の伸長)	○生活しな決話し合 「男らしさ、女らしさ」 ・体験から考える「男の仕事、女の仕事」		読書	廊下の右側を歩	○走れ(家・愛)

<第4学年 道徳別業 年間指導計画>

① 掲示の工夫

学校教育全体で行う道徳教育について、アリーナ前の掲示板に年間を通して掲示し、児童が道徳科と各活動とのつながりを感じ、自分を見つめる手立てとして掲示している。重点価値項目に対応する各学年の道徳科の教材名や挿絵、児童のワークシートや関連する委員会の活動、学校行事の写真等を、つながりが分かるようレイアウトし、道徳科で学んだことを実生活に生かせるようにしている。また、学期末には、児童玄関に道徳科のワークシートを掲示することで、懇談時に来校する保護者への啓発と児童間の相互理解を促している。



<アリーナ前掲示で道徳科と生活をつなぐ意識づけ>

(3) 学校全体で取り組む道德教育の実践例

① 人権・同和教育とのかかわり

ア 「人を大切にする学習」の充実

本校では、人権意識の涵養を図る学習や様々な人権課題についての学習を、独自に「人を大切にする学習」と呼んでいる。「人を大切にする学習」の特徴は、従来から実践してきた人権・同和教育に加え、学年ごとに、校区内にある二軒茶屋総合センター（隣保・児童館）と関連する学習（地域学習）を組み入れることを通して、部落差別をはじめ様々な人権課題の解決に向け、当事者との交流等を通してプラスの出会いができるようにすることにある。

職員の異動があっても系統立てた指導ができるよう、職員研修の時間に学期ごとに実践報告をして指導内容や地域とのかかわりについて共有しながら進めている。

学年	地域学習の内容	
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボール迷路の体験（9月） ・人権フェスタ（10月） ・昔遊びをしよう（2月） 	<p>「人の誕生」の迷路から命の大切さについて学ぶ。</p> <p>人権に関する図画作品の出品と鑑賞。</p> <p>保護者も参加して、昔遊びの体験。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボール迷路の体験（9月） ・人権フェスタ（10月） ・町探検をしよう（11月） 	<p>「人の誕生」の迷路から命の大切さについて学ぶ。</p> <p>人権に関する図画作品の出品と鑑賞。</p> <p>二軒茶屋総合センターの施設等の調べ学習。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・人権フェスタ（10月） ・校区の自慢できるところ（10月） 	<p>人権に関する図画作品の出品と鑑賞。</p> <p>二軒茶屋総合センターの行事の目的や職員の思いを取材し、自分の生まれ育った地域を大切に思う気持ちや行事等への参画意識の育成を図る。</p>
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・人権フェスタ（10月） ・なかよし大作戦（11月） 	<p>人権に関する習字作品の出品と鑑賞。</p> <p>二軒茶屋総合センターでの調べ学習から、相手の立場や気持ちを考えることや決めつけずに接することの大切さを学ぶ。</p>
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・人権フェスタ（10月） ・住みやすい町城北校区（11月） 	<p>人権に関する図画作品の出品と鑑賞。</p> <p>二軒茶屋総合センターの段ボール迷路や人形劇のボランティア活動への思いを知り、自分たちでできるボランティア活動（クリスマス会等）を実践。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・人権フェスタ（10月） ・館長さんから学ぼう（2月） 	<p>人権に関する習字作品の出品と鑑賞。</p> <p>人の幸せを願い差別をなくすための活動をしている館長さんの生き方から自分の生き方を見直す。</p>



二軒茶屋総合センターに初めて来たよ。命の大切さを教えてくれたよ。

たくさんのことができるようになったよ。命が大切に守られてきたからだね。

地震がきても、あわてず自分の命をしっかり守るよ。

<段ボール迷路を体験する1年生> <「みんなあかちゃんだったよ」の学習> <避難訓練で命を守る行動を学ぶ>

道徳科の教材で学んだことを、なかよし大作戦のヒントにする視点をもたせる。

笑顔を広げよう なかよしの輪 ～なかよし大作戦～ 4年生

なかよくなるために大切なことを学ぼう

「近しい心のかみ」 学んだこと <道徳>

本当の友だちとは何だろうか？

赤おに、青おに、村人

相手を思いやる気持ちが大切だね。でも自分も大切にしたい！

どんな友だちになればいいのかな？

これから目指していく友だちとの関わり方が分かったよ。

本当の友だちって、苦しい時に助け合える人だよ。だれでも仲よくするために、みんなで楽しく過ごすように心がけたいといいね。

「山びこ村の二人」 学んだこと <道徳>

差別をなくすために必要な心は何だろうか？

村人、平八、五郎

自分が平八だったら悲しい！ みんなで祝いたい！！

だれとでもなかよくなるためには？

どんなことが大切なのかな？

相手の心を考える、みんなが楽しく過ごせるように心がける、いろいろな人と関わっていく

自分のことをもっと知ろう！

アンケート結果 (11月調べ)

- 異性のことが気になることがある 3人
- 異性と話したいけどはずかしい 10人
- 女子と男子とで意見が合わないことがある 22人

男子はいいなあ、女子はいいなあ。

「なんだか、異性のことや友だちのことが気になるなあ。」

それは当たり前のことだよ。大人に一歩ずつ近づいているんだよ。

自分のことが分かったよ。自分の中の新しい自分に出会えたよ。自分のことを大切にしよう。

友だちとの交流

ケイドロ、ピー玉転がし、教室見学

地域の方との交流

緑道公園清そう

二軒茶屋 総合センターで、人権フェスタ見学

他の学年の友だちとの交流

ペア読書(2年生)、ぞうきんレース(3年生)、しっぽ取り(6年生)

相手のことを思い、相手が喜んでくれるような言葉や行動を心がけたよ。そして、自分も楽しむこと！自分を大切にしたいよ。

なかよし大作戦を通して...

なかよくなるためには、相手の立場や気持ちを考えることや、「○○だから」と決めつけをせずに接することが大切だと学んだよ。きんちょうすることも多かったけれど、ちょう戦することで、いろいろな人といっしょに生きていることを感じられたよ。

＜4年生 人を大切にする学習で学んだことポスター＞

イ 「なかよしのつどい」の取組

「人を大切にする学習」のまとめとして、1月に保護者や地域の方を招いて、人権集会「なかよしのつどい」を実施している。「人を大切にする学習」で学んだことをもとに、自分たちの生活に身近な内容にまとめ、他学年や保護者、地域の方へ発信する形にすることで、学んだことを生活に生かし、よりよく生きようとする意欲を高めることにつながっている。



＜3年 校区の自慢スポット＞



＜4年 なかよし大作戦＞



＜6年 幸せに暮らせるように＞



なかよしのつどいを通して、城北校区のよさやあたたかさを知ることができました。親に成長した姿を見てもらってとても良かったです。(5年児童)



世の中には、いろんな人や考えが数えきれないほどあります。正しい知識をもって、これからも過ごしてほしいです。みんなが楽しく生活できる世の中になるといいね。(保護者)

ウ 「心を育てるプログラム」の実践

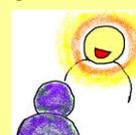
自分自身の感情をコントロールし、豊かな社会性や人間性を育むために必要なソーシャルスキル・構成的グループエンカウンターを取り入れている。本校では、人とかかわるためのスキルを5観点にしぼり、それらを学習する内容を「心を育てるプログラム」として、各学年年間5時間で設定している。

年度始めの学級開きや長期休業明けには「心を育てるプログラム月間」を設けて学級づくりに役立てている。また、実践した指導案やワークシートなどを実践記録ファイルにとじて、事例集の中から児童の実態に合わせて実施している。さらに学期末には「心を育てるプログラム」の実践報告を行い、児童の反応や変化などを全職員で共有している。



<1年生のあいさつゲーム>

令和6年度「心を育てるプログラム」年間計画

5つの視点		① 自分自身の感情を知る  わたしのきもち	② 感情を抑制する  おちつけ おちつけ	③ 自分自身を動機づける  ピンクうさぎ	④ 相手の感情を確認する  かおをみて	⑤ 人間関係をうまく処理する  しずかちゃんの話し方
1年	題材名	あいさつゲーム	おちつけ・おちつけ①	ピンクうさぎと青色うさぎ	表情たんけん	3つの話し方
	内容	よろしくね	おまじないが一番	がんばるウサギの声!	相手の気持ちを知る	しずかちゃんの話し方
2年	題材名	わたしのことを紹介しよう	おちつけ・おちつけ②	2つの声	えがおでいっしょに	あたたかい言葉かけ
	内容	わたしのすきなこと	イライラおにをやっつけよう	自分を勇気づける心の声	同じもの集まれいっしょに遊ぼうゲーム	自分の気持ちを伝えるこつ
3年	題材名	友だち発見	おちつけ・おちつけ③	あきらめない自分	この子の気持ちがわかりますか?	しずかちゃんの話し方
	内容	私はだれでしょう	こつを使って練習しよう	暗い気持ちが明るくなるこつ	共感のこつ	クッション言葉
4年	題材名	自分発見	腹が立っても・・・	元気になるチャンス	上手な聞き方	なんて答えたら・・・
	内容	いいところさがし	落ち着いて伝えよう	自分をはげますこつ	話を聞くためのこつ	断り方のこつ
5年	題材名	感情のサイコロトーク	トラブルが起きても	やります宣言	友だちいっぱい	人となかよく付き合う方法
	内容	自分の気持ちをみんなに話す	解決策がいっぱい	目標を達成するこつ	友だちを増やす共感のこつ	けんかをせずに解決するこつ ほくほく言葉と態度 ほくほく態度
6年	題材名	自分への見方	いろいろな人とかわらう	Dreames come true	表情を受けとめよう	ていねいに感じよく気持ちを伝えよう
	内容	自分の行動はどっち? クラスの中の自分	I (わたし) メッセージ	プラスイメージに変えよう 未来ノート	友だちに何ができる?	いやというゲーム 誘惑にまけない

② 児童会活動の取組

ア 生活目標と重点項目との関連

本校では、生活の中で生きて働く道徳性を身に付けるために共通価値項目に基づいて「あいさつ」(礼儀)「廊下歩行」(節度, 節制)「言葉遣い」(親切, 思いやり)「清掃」(勤労, 公共の精神)の4つを柱にしている。各委員会, 各学級で活動内容を考え, 代表委員会や朝礼の場で全校に呼びかけ, 取組を推進している。

月	生活目標	
4・5月	あいさつ ○元気よく ○笑顔で ○自分からすすんで	掃除名人
6・7月		廊下歩行
9・10月		ほくほく言葉
11・12月		掃除名人
1・2月		ほくほく言葉
3月	1年間を振り返ろう	

生活目標に沿った望ましい生活態度を自分たちの力で身に付けられるよう, 2つの価値項目で2ヶ月間実施している。2ヶ月目には生活目標が達成できるよう, 学級で1ヶ月間の取組を振り返り, その反省を生かして新たな取組を考えて実践している。また, 4つの生活目標に毎学期繰り返し取り組むことで, 定着とレベルアップをめざしている。

あいさつ(礼儀)

本校では, 児童会があいさつ運動の取組を年間通して行っている。昨年度は, 代表委員会で「あいさつ」を活性化できる取組について話し合い, 「あいさつビンゴ」「あいさつカード」などを行った。今年度は, 学級ごとに児童玄関で朝のあいさつ運動をしてつないでいく「あいさつリレー」に取り組んだ。児童主体の活動にすることで, 高学年が手本となって全校にあいさつの気持ちよさを広めることができています。



自分からすすんであいさつできたよ!

<あいさつカードの取組>

廊下歩行(節度, 節制)

安全委員会が廊下をパトロールし, 廊下歩行をチェックする取組を年間通して行っている。昨年度は, 全校生を2つのチームに分け, 東階段側と西階段側で正しく歩いている人の数を競う「ほくほく廊下歩行合戦」という取組を行った。右側を歩けていない人に声かけをしたり, 正しく廊下歩行できている人が多かった階段を発表したりすることで, 安全な廊下歩行についての意識を促した。今年度は, 「てくてく歩こう」「すたすた歩こう」の合言葉を階段や廊下に貼ったり, 各学年で手作りの表示をしたりして工夫して取り組んだ。安全に対する児童の意識が高まり, 広がらずに右側を歩く児童が増えた。



安全に過ごせるように, みんなで右側を歩こう!

<安全委員会の発表の様子>

言葉遣い(親切, 思いやり)

本校では、人を思い合えるように友だちの心が「ほくほく」する言葉を「ほくほく言葉」としている。昨年度は、代表委員会で様々な「ほくほく言葉」を考え、学年の発達段階に応じた「ほくほく言葉ビンゴカード」を配布し、「友だちが上手くできた時に、ナイスと言う」など、「ほくほく言葉」を使う場面が具体的にわかるように活動を工夫した。

様々な場面で「ほくほく言葉」を使う児童が増え、保護者アンケートの結果でも、「ほくほく言葉が使えている」と答えた保護者が8割を占めている。「心を育てるプログラム」と関連させ、いつでもどこでも誰にでも、ほくほく言葉でコミュニケーションできるよう実践している。

どんな時にほくほく言葉を言ってもらえたらうれしいかな？



<ほくほく言葉ビンゴの作成>

清掃(勤労, 公共の精神)

環境委員会を中心に掃除道具の使い方や清掃の方法の説明をしたり、写真やイラストを使った雑巾の絞り方や掃除道具入れの片づけ方法などの掲示をしたりして、黙々清掃を呼びかけている。

昨年度は、「静かに掃除をすること」ができていないと感じ、全校で赤白帽子を使った取組や、「掃除ビンゴ」を行った。よくできているフロアを放送で紹介したり、目標達成できた学級に手作りの賞状を贈ったりして、こつこつがんばるよさを認め、励ましている。



<掃除の様子>

イ 自尊感情・自己有用感を高める取組

○ 笑顔満開見てみ一会

児童の自尊感情・自己有用感を高めるため、年に1度、児童会の企画で特技を発表する場を設けている。なわとびやピアノ演奏、ダンスなどを個人で発表する児童、みんなで合奏を発表する学級など、自由にエンタリーできる。



<笑顔満開見てみ一会>

観客席の児童から手拍子や拍手が送られ、温かい雰囲気の中で互いのよさやがんばりを認め合うよい機会となった。教員が生活目標のキャラクターに扮した「ほくほくオウジャー」も登場し、全校で協力して生活目標を達成するよう呼びかけ、盛り上げた。

○ 異学年交流

1年生と6年生など、校内でのペア活動や、近隣のこども園の年長児との交流など、年間を通して継続的にかかわる機会を設けることで、児童の道徳性を養う実践の場としている。

年上の立場では、どうすれば年下のペアが喜んでくれるかを考えてイベントを企画し、年下の立場では、活動後にお礼の手紙やプレゼントを準備する過程で、異学年の友だちへの思いやりや感謝の気持ちを体験を通して学んでいる。



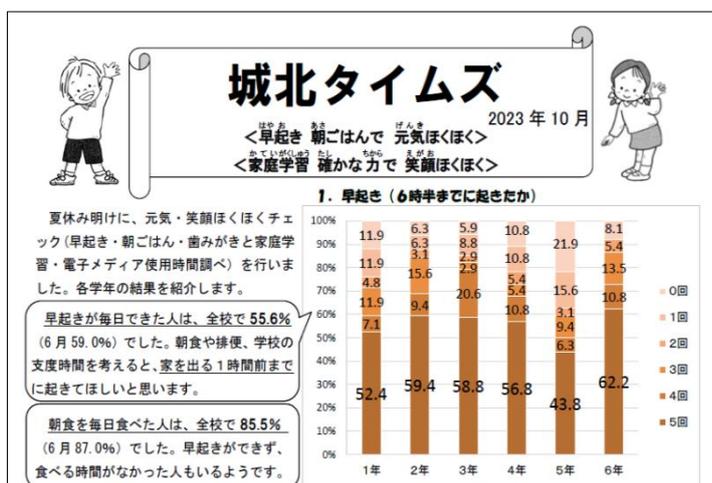
<4年生と年長児のなかよし大作戦> <1年生と年長児のおもちゃ祭り> <全校で取り組むペア読書>

イ 元気・笑顔ほくほくチェックの取組
 家庭と連携して、児童の基本的生活習慣の確立と家庭学習の定着を図るため、6月、9月、1月の年3回、「元気・笑顔ほくほく週間」という強調週間を設け、生活リズムと家庭学習のチェックを行っている。チェック項目には、早起き、起床後の気分、朝ごはん、歯みがき、宿題、家庭学習時間、電子メディアの使用時間があり、児童自身がめあてを決め、自分の生活を振り返りながら実践する。

実施後、集計した結果や保護者からのコメントを載せた「城北タイムズ」を各家庭に配付している。保護者に読んでもらうことで新たな発見が生まれるなど、意識高揚につながり、保護者から児童への声かけも期待できる。また、生活リズムや家庭学習の環境が整いにくい家庭に対しては、長期休業前の懇談会等で担当が個別に協力を依頼するなど、底上げも意識した家庭への啓発を図っている。

4 研究の成果と課題

- 「全員参加」を支える手立てを考え、ねらいに応じて取り入れることで、自分の考えをもつことができていると答えた児童の割合が上がった(77.4%→87.4%)。今後も、授業モデルを基に様々な支援を試み、共有していきたい。
- 道徳で勉強したことを生活で使えていると答えた児童の割合が大きく上がった。児童会、生徒指導、安全指導、清掃指導など各担当を中心に、道徳的価値を意図した実践を推進し、細かなフィードバックで児童をあたたく認め励ますことに取り組んでいる成果といえる。
- 重点項目のほとんどの分野で肯定的な回答の数値が上昇した。特に人権・同和教育にかかわる「公平・公正」の分野の数値がアップ(85.8%→92.6%)したことで、道徳教育の推進が、人を大切にし自分を大切にできる児童の育成につながっていることを再確認できた。
- 「学び合い」の質的な向上を追究したい。児童が、互いの学び合いによって納得解を得たという達成感のあるより高次の「全員参加」をめざすための次の手立てを見つける必要がある。
- 家庭との連携については、お便りや掲示での発信に加え、授業公開などで啓発・連携をすすめることで、地域や家庭での道徳的価値の浸透につなげていきたい。



おうちの方からの言葉

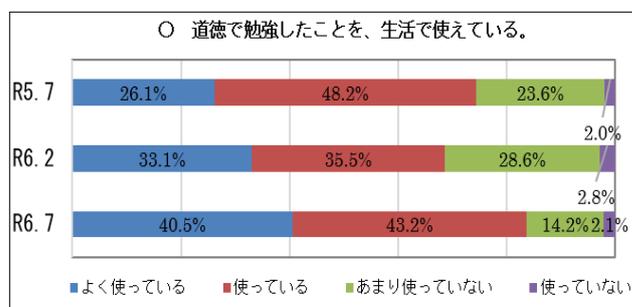
1年 保護者
 おうちの芳の言葉
 しゅくだいの靴、じゅばんきょうちゃんこでできたね。おねがひもつづけるよにがんばろうね。

2年 保護者
 おうちの芳の言葉
 あせいな、ばかばかりよくかかないこともあるかも、しれないけれど、できたげにたくさん食べて、100%を上げようね。

3年 保護者
 おうちの芳の言葉
 朝、自分で起きれるようにサポートしていきたいです。

4年 保護者
 おうちの芳の言葉
 早おき、たいんだらたけどよくがんばりましょねおきのぼーとする時間をもう少しみじかくしたら、朝の時間とゆうこうにつかえるよ!!

<結果や保護者コメントを紹介した「城北タイムズ」>



<道徳アンケートの結果より抜粋>

- 全国道徳教育研究大会に参加し、徳島市立国府小学校の道徳授業において、児童が考えたことを自由に意見交換していた。児童自身が自分の考えにおける根拠をより確かにするためなどのめあてをもつことによって、より深い学びにつながる協働的な学びの様子がみられたので、次年度における「全員参加の授業」における学習過程の参考にしたい。
- 広島大学附属小学校研究発表会に参加し、各教科の個別最適化の学びにおける様々な振り返り方法等を学んだ。特に協働的な学びと個別最適化の学びの一体化を図る工夫については、十分に研究が取り組めなかったため、カリキュラムと連動を図りながら物語評価を行うことの利点を本校の教育実践と照らし合わせ、十分に検討し、次年度への授業改善に役立てたい。